



堀内 愛果 (ほりうち まなか) 由木中央小 4年生

作品名：平和への道

図 書：窓ぎわのトットちゃん

「君は、本当はいい子なんだよ。」

校長先生の言葉は、トットちゃんを変えた。

トットちゃんは、自由気ままな子だ。ポットトイレにお財布を落とした時、トットちゃんはどうしたと思う?何とトイレのこえだめを、ひしゃくですくい始めたのだ。それを見た校長先生が、

「何してるんだい。」

と聞いただけで怒らない。しまいには、

「終わったら全部もどしとけよ。」

と言って去って行った。トットちゃんは行動的な子だ。そしてあきらめない。前の学校では、突拍子もない行動で迷惑ばかりかけていた。でもトモ工学園に来てからは、悪い子ではなく、いい子になった。人との出会いが人を大きく変えるんだと私は思う。

トモ工の授業はすごい。色んなことが体験できちゃうからだ。みんなの課題が終わったら、散歩に出かける。みんな楽しみながら学んでいる。実は、理科や歴史や生物の勉強になっている。トモ工の子は体験して身につけている。私はびっくりした。こんなに楽しく学べることは、トモ工だからこそできるんじゃないか。人間は忘れてしまう生き物だが、体験したことは、90%、自分が考えて説明したことは95%覚えていると聞いたことがある。トモ工がやっていることは、見てふれて感じる授業だ。きっと子ども達も目を輝かせているんだ。私にも経験がある。エレクトーンで新しい音を見つけると、こんな音もあったんだ、と感動する。その時先生は、目をキラキラさせているね、と言ってくれた。発見した瞬間は、思いがあふれ出てくるんだ。

保育園の時、毎年みそ作りをしていた。その時の事をよく覚えている。発こうする前より後の方が何で色がこいんだろう。塩のかたまりみたいにしょっぱかったのが、一年後には、香りも味もまろやかになった。こうじの力はすごい。体験した記憶は、私の心にはつきり残っている。

この夏ガラス作りをした。サウナみたいに暑かった。ガラスは千度でとける。真っ赤になったガラスは、マグマみたいに熱い。ガラスを初めに作った人は、何でとかそうと思ったんだろう。作っていたら何だか疑問がわいてきた。トモ工の授業みたい。

障害のある子に、校長先生は言っている。

「君は障害があるだけでみんなと何も変わらないんだよ。」

障害がある子をからかった女の先生のことを校長先生は、すごく怒り悲しんだ。その気持ちはよく分かる。校長先生は、みんな平等だよと、心のバリアを取り払おうと応援してきたのに、全て水の泡だ。そんな校長先生の心は、トットちゃんに伝わったんだ。トットちゃんは第二の校長先生だ。小児マヒの泰明ちゃんを木に登らせたトットちゃん。危なかったけど泰明ちゃんの夢をかなえてあげた。トットちゃんにとっては、誰もが友だちなんだ。障害なんて関係ない。

小林校長先生が教えてくれたことを誰もがすれば教室が仲良しで温かな場所になる。教室のケンカがなくなる。次は学校が、地域がと、どんどん心が温かくなる場所がふえて行くと思う。高校生が民泊体験をするテレビを見た。魚がおいしいと目を輝かせ、農家では心をこめて育てていることを知った高校生。家族みたいにむかえた農家の人たち。私は感動した。たった一泊だけど、一緒に食べて話してはたらいてきずなを深めて、別れの時にありがとうと泣いていた。そうやって誰もが温かくやさしかったらどんなに幸せだろう。家族みたいにしてくれたら。こうして平和が生まれるんだ。平和が広がり続けたら世界中が幸せな国になる。小林先生もまた、心をこめて、その人に合った育て方で人を育てていた。心は人を変えていく。これが平和への道だと私は信じている。